

## 第6回総合計画審議会意見に対する考え方・対応状況

令和6年10月31日  
総合計画審議会参考資料1

分類	御意見（要約）	考え方・対応等	反映部分
ミライ構想 （将来像）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「つながるつくる暮らし楽しむまち」とあるが、具体の「暮らし楽しむ」場面に遭遇するとまちの愛着が生まれると思う。</li> <li>・8総から幸福寿命の延伸が言われているが、幸福という言葉を入れると、尊厳も表現できると思う。</li> <li>・9総において、市民の尊厳とか人権に目を向けることがもう一押しあると良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本市が目指す幸福の形を「つながる つくる 暮らし楽しむまち とよた」という将来像として表現しています。より分かりやすくするため、本文中に「<b>幸せを感じながら</b>」という表現を追加しました。</li> <li>・現在、第9次豊田市総合計画の内容について、市民の皆さんとその理念を共有するためのツールとして「（仮称）コンセプトブック」の制作を進めています。この中で、より具体的なイメージの例示を行うなど、一人ひとりが自分ごととしていただけるよう工夫したいと考えています。</li> </ul>	資料① P18
ミライ構想 （将来都市構造）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来の都市構造について、「更なるコンパクト」は、山村と都市の融合や多様な選択肢があるということを表現した方が良い。</li> <li>・「更なる選択と集中」の表現は、全体の雰囲気と合わず、変更した方が良い。</li> <li>・人口減少社会における土地利用については、都市経営的にインフラを選択と集中せざるを得ず、分散型の連携型都市構造をめざしていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市経営の観点から、メリハリのある都市的土地利用を推進することは重要なものと考えています。御意見を踏まえて「更なる選択と集中」から「<b>長期の視点を持って戦略的に</b>」という表現に修正しました。</li> </ul>	資料① P21 ほか
ミライ実現戦略 2030「はじめに」 ・取組目標③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「選ばれるまち」が人口維持の視点が強調されているように思うので、文章の工夫が必要。</li> <li>・中小企業でも担い手や働き手の確保が喫緊の課題であり、何をすると「働く場所」としてのまちの魅力があがるのか、わかりやすく表現してほしい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若年層が活躍できる社会をつくることで、人口減少社会においても、まちの活力を保ちたいと考えています。</li> <li>・現状は、豊田市で生まれ育った若年層が、進学や就職等を機に流出している傾向がみられます。そこで、若年層が自分の人生を歩む上で、豊田市が選択肢の1つとなるよう、チェンジ・チャレンジでまちづくりを進め、豊田市の魅力を高めていくことが重要と考えています。</li> <li>・「選ばれるまちを目指す」という表現は、「<b>まちの総合力を高めていくことが重要</b>」に修正しました。</li> </ul>	資料① P27
取組目標①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合計画と、教育委員会が作る教育大綱や施策の振興計画との位置付けやすり合わせが必要。</li> <li>・総合計画で書いている「こども中心」を実現するためには、教育委員会も同じ目線で取り組み、カリキュラムマネジメントまで関わるくらいの教育の変換を進め、その中で地域社会と関わりながら学ぶという経験をこどもたちにどう提供していくかということが大切。</li> <li>・総合計画で書いている方向性を教育現場にどう落とし込んでいくか、地域や社会でこどもを育てるといふ思いについて、学校現場とのすり合わせが必要。</li> <li>・豊田市の教育大綱と総合計画の内容と大きな隔たりはないと思っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合計画で掲げた方向性を、全庁挙げて同じ目線で推進することが重要と考えています。学校と地域社会が連携して、こどもを育てていくということをよりしっかりと表現するため「<b>学校と地域社会との共働により</b>」という文言を追加しました。</li> </ul>	資料① P37
取組目標①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公共交通機関の利用は、体力や頭を使い、健康にも寄与する。ただ、総合計画では、全体を通して健康についてあまり触れられてない。</li> <li>・社会的な健康の充実に関する記載はあるため、「健康」という文言を追加すれば現行計画と継続性が出ると思う。身体的な健康については、トーンダウンしているが、今回の総合計画の方向性としては問題ないかと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康への取組については、第8次豊田市総合計画において重点的に取り組んできた内容のひとつであり、健康意識は、健康寿命の延伸と共に高まり続けていると認識しています。</li> <li>・身体的な健康づくりに関する取組も継続して進めていきますが、第9次豊田市総合計画においては、社会的な健康の充実の側面をより意識しています。そうした視点を「人生100年時代」「いきいき」「豊かな経験・活力」といったキーワードで表現しています。</li> <li>・P38において「<b>身体的に健康であるだけでなく、社会的に健康であることが必要</b>」という表現を追加しました。</li> </ul>	資料① P38
取組目標①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分には良いところがある」「学校に行くのが楽しいと思う」と思う割合について書いているのは良い。ただ、文化芸術に触れるという記述があるが、機会を増やすことは学校では簡単そうで難しいと思うので、そこに関連する指標があると具体性があり施策としても打ち出しやすいと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取組目標の指標は、最終インパクトとして各施策による総合的な効果を測るため、アウトカム指標（市民意識調査等）を設定しています。</li> <li>・図書には掲載しませんが、各施策で個別に設定する指標については、アウトカム指標とアウトプット指標の両方を設定していきます。</li> </ul>	資料① P 37
取組目標②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「まち全体がこどもの成長を支えている」とありますが、公的な施策だけが並んでおり、つながりの中で安心して暮らすという観点でいうと、「居場所の充実」のように、信頼できる大人と関わりがあるとか、地域でこどもを育てるといった視点が大切である。</li> <li>・「多様で緩やかなつながり合い」について、地域でこどもを育てていくために、つながるといふことが大切という表現があると、つながり合えるイメージが持てるのではないか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取組目標②において「地域でこどもを育てる」「居場所の充実」といった視点は、重要なものであると認識しています。P42「（1）まち全体がこどもの成長を支えている」において、その視点を追加して表現しました。</li> <li>・なお、具体的な施策については、取組目標①における「こどもの多様な遊び・学び・体験の場の充実」と重複する部分があると捉えているため、取組目標①においても「居場所」について言及しました。</li> </ul>	資料① P36 P42
取組目標②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援について、施策として理解はできるが、合計特殊出生率など他の指標もある中で、コロナ前から出生数は下降トレンドにあり、出生数の維持を指標とすることは量、規模を維持することにつながる懸念がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミライ実現戦略2030では、若年層を始め広く人々にとって、豊田市が「活躍したい」「暮らしたい」「働きたい」「結婚や子育てをしたい」と感じてもらえるよう、魅力あるまちづくりを進めたいという思いを持っています。「結婚や出産のしやすさ」をどれだけ実現しているかを表す指標としては、出生数よりも合計特殊出生率のほうが適切であると考え、修正しました。</li> </ul>	資料① P43
取組目標②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ゆるやかなつながりの選択肢を増やす」は重要であり、従来の地域のつながりも大切であり、それに加えて新たなつながりを作っていくということ。安心して暮らせる基盤は重要だが、地域共生社会の観点でいうと、「楽しむ」や「自分らしく」といった自己実現に関連するような表現があると良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自分らしく」や「楽しむ」といった要素は重要なものと考えます。取組目標②についてより伝わるように、「誰もがつながり合いの中で、安心して<b>自分らしく</b>暮らすことができる」という表現に修正しました。</li> <li>・なお、「（2）誰もが地域・多世代でともにつながり合い、自分らしく暮らしている」と表現が重複するため、こちらについては「（2）誰もが地域・多世代でとも<b>つながり合いながら</b>暮らしている」と修正しました。</li> </ul>	資料① P44 ほか

## 第6回総合計画審議会意見に対する考え方・対応状況

令和6年10月31日  
総合計画審議会参考資料1

分類	御意見（要約）	考え方・対応等	反映部分
取組目標③	<ul style="list-style-type: none"> <li>「（2）市内事業者が社会の変化に適応している」の取組の方向性にある「市内事業者の経営力強化」について、「効果的な設備投資や経営力の強化を促すため、デジタル技術を活用することで、生産性の向上や省人化を図り、…」は、「デジタル技術を活用することで」を削除するか、あるいは「デジタル技術活用も含めて」と変更してはどうか。</li> <li>理由としては、①貴市の中小企業の支援策は、デジタル技術関連以外にも広く及んでいる、②指標も、特にデジタル化を含んだものではないため。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル技術関連以外にも意識していることから、「デジタル技術の活用も含めて」という表現に修正しました。</li> </ul>	資料① P48
取組目標③	<ul style="list-style-type: none"> <li>「女性などの多様な働き方の選択肢の充実」と書いているが、表現の見直しが必要。</li> <li>「女性など」という表現は、女性に絞ったものではなく、働きづらさを抱える人ということであれば、「女性など」の表現は変えた方が良いと思う。</li> <li>女性の働き方や女性だけではなく、社会全体の最適解がないと思っている。変化の大きな時代だからこそ、対応できるような多様なプレイヤーによる多様な働き方を可能にする制度や機運づくりを進めるといった文言があると良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「多様な」と表現しているように、様々な属性の誰もが働きやすい社会であることが理想と考えています。一方で、本市の人口構造等の特性を踏まえると、大きなターゲットとして女性が想定されるため、あえて女性と例示的に表現しています。</li> <li>なお、文章表現については、読みやすくなるよう「女性を始めとする誰もが多様な働き方を選択できる環境の充実」と修正しました。</li> </ul>	資料① P50
取組目標③	<ul style="list-style-type: none"> <li>「多様な働き方、生き方の創出」について、暮らしている人が多様に働いたり生きたりするために選択可能な社会に変えていくことが重要であり、「創出」の表現は変更した方が良い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>冒頭の表現「多様な働き方・生き方の創出は・・・」を「多様な働き方・生き方が選択できる社会をつくることは・・・」と修正しました。</li> </ul>	資料① P50
取組目標④	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通に関する記述について、資料③において、都市間拠点間連携を支える交通ネットワークの強化ということで書いており、交通とは「幹・枝・葉」で構成されているが、ここでは都市の交通の発展を支えていくような内容として幹と枝に関する内容が書かれています。一方で、地域で一番問題になっているのは葉の部分であり、ラストマイル問題やバス停まで歩けない形の増加、免許返納後のドアツードアのサービス対応が求められている。この点は、住民共助の移動支援について書いてあり、交通の幹枝と葉の部分が離れているので、文章表現の修正が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活交通は重要な課題であると捉えています。</li> <li>取組目標④においては、めざす姿から順に具現化を進める中で、交通ネットワークのうち、生活交通については拠点内の「暮らし機能」の充実を構成する要素の1つとして捉え、生活交通のみ「暮らし機能の最適化」施策の取組として位置付けています。</li> <li>交通ネットワークに関する全体像が見えやすくなるよう、取組目標④（1）の方向性を示しているP52において、「幹・枝・葉」となるよう文章表現等を修正しました。</li> </ul>	資料① P52
取組目標⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>気候変動については、おそらく5年後、10年後になって、2024年が新たなフェーズに突入したと評価されるようになる。熱中症についても、誰一人取り残さないことが大切であり、適応の視点もどこかに記載があるとよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>気候変動への適応も重要な視点と考えます。ミライ実現戦略2030では、緩和（脱炭素）の視点に重きをおきつつ、適応策についても進める必要があるという認識のもと、表現を見直しました。</li> </ul>	資料① P58
取組目標⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>大企業のように脱炭素にお金をかけられる企業や、脱炭素どころでない民生や中小企業もあり、これらも含めて地域のアクターが脱炭素で連携し助け合う、つながる仕組みを作ることを行政として支援してほしい。</li> <li>循環型社会をつくるのが評価基準に入るべきだと思う。SDGs未来都市として、LCA（ライフサイクルアセスメント）の概念を全面的に出して、Scope1、2、3を意識して、豊田市全体の資源循環を目指すような視点を書いて欲しい。</li> <li>脱炭素に関連して、原案では市民の行動変容も含まれている。SDGsについては、誰一人取り残されないという視点を脱炭素社会の中でどう組み込むか、総合計画の中でどう捉えるかという点がポイントだと思う。</li> <li>Scope3、サプライチェーン排出論の話については、今年度末に日本国の開示のルールができると言われており、その1年後の決算の時期から開示義務が進んでいくことになる。その中で市内の中小企業を含めて取り残されないようにしていくことが大切。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「資源循環」や「オールとよた」で誰もが脱炭素に向けて取り組んでいくことが必要と考えており、これらの視点を強調して表現を修正しました。</li> <li>なお評価基準に関しては、「脱炭素社会の実現に向けて行動する市民の割合」「市民一人当たりのごみ排出量（資源除く）」といった指標の中で、資源循環の視点も含めて評価していきたいと考えています。</li> </ul>	資料① P58,59
取組目標④・⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>CO2削減の中の2割が交通部門、そのうち自動車の割合が多くなっている。CO2削減のために交通手段の転換が求められており、公共交通への手段転換が検討されているが、豊田市の総合計画には手段転換について記載がない。公共交通ネットワークや鉄道の強化に合わせて、公共交通への手段転換について記載するとよい。</li> <li>働く皆さんは通勤がストレスになっているので交通インフラの話は重要だと思う。交通インフラの整備が十分であれば、障がい者や高齢者の方も働き手としての数に入ってくると思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>取組目標⑤の施策「脱炭素社会の実現に向けた市民の行動の促進」において、脱炭素型ライフスタイルの提案を進めるといった記述に対して、「公共交通の積極的な利用」など、具体的な例示を追記しました。</li> </ul>	資料① P59
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料②計画策定の背景について、強みの記載はあるが、弱みが、強みの所や環境変化の所に記載があり整理されていない。「強み、弱み、環境変化」を整理して記載するとよい。また、強み、弱みは何を基準に考えているのか、ベンチマークの結果や、共通基準の設定があるなら比較するとよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「豊田市の特徴」「豊田市を取り巻く環境変化と課題」という項目名に修正しました。</li> </ul>	資料① P6 P9
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>「チャレンジ意欲を持っている市民の割合」とあるが、行政職員自身がチャレンジや変化の意欲を持っているかという点も評価の視点として入れると、総合計画の実効性が高まるのではないかなと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>総合計画の方向性を実現するにあたり、行政自身がチャレンジしていくことも非常に重要な視点と考えます。第4章において、チェンジ・チャレンジの意思をもって、総合計画のPDCAサイクルを進めていくことを記載しました。</li> </ul>	資料② P9
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料⑤の豊田市デジタル田園都市国家構想総合戦略について、「③産業中枢都市として深化し続ける」の「（3）誰もが希望する働き方を実現している」ですが、基本目標の「③結婚・出産・子育て」の欄に○はつかないでしょうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本目標の「③結婚・出産・子育て」の欄に「○」を追加しました。</li> </ul>	資料② P13
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>アウトカムは成果を測りにくいので、意識調査結果に頼ることが多くなるが、意識調査の結果はその時々社会情勢に影響を受けるため、経年変化を見るときに成果指標としては偏る懸念があります。そのため、アウトプットとアウトカムを上手に入れる必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>取組目標の指標は、最終インパクトとして各施策による総合的な効果を測るため、アウトカム指標（市民意識調査等）を設定しています。</li> <li>図書には掲載しませんが、各施策で個別に設定する指標については、アウトカム指標とアウトプット指標の両方を設定していきます。</li> </ul>	